

里山保全活動について

1 ねらい

里山の自然や歴史、生活文化を学び、自然と調和していく大切さや環境の保全への関心を育てる。
また、集団での体験活動を通して、友達と協力して取り組む協調性、思いやりの心を育てる。

2 内容

| | 晴れ（約3時間～） | 雨（約1時間30分～） |
|--------|---|---|
| 所要時間 | 里山保全についての講話（約30分） 木の伐採・切り分けの作業（約2時間） 薪小屋へ薪運び（約15分） 片付け・まとめ（約15分） | 里山保全についての講話（約30分） きこり体験（約45分） 片付け・まとめ（約15分） |
| 場所 | 講話：研修室、体育館、講義室 作業：ふれあいの森、大門池広場 | 講話：研修室、体育館、講義室 作業：体育館、体育館下 |
| 人数 | ※200名を超える団体様は事前にご相談ください。 | |
| 実施可能期間 | 通年 | |

3 計画

- ① 下見時の職員との打合せ
- ② 「活動計画・備品借用申込書」（第4号様式）の体験を希望する時間に「里山保全活動」と記入
- ③ 人数の多い団体様は1グループ最大約50名になるよう事前に調整

4 団体様にて準備していただくもの

| | |
|-----|---|
| 服装 | (1) 長そで・長ズボン（汚れてもよいものが望ましい）※夏場も着用してください (2) 軍手または作業用手袋（すべり止めタイプが望ましい） (3) はきなれた動きやすい靴（サンダル不可） (4) 帽子 |
| その他 | (1) 水筒 (2) 救急セット (3) その他必要であれば（虫よけ・ヒルよけ、日焼け止めなど） |

5 指導体制について

里山保全活動の指導については、1グループ（最大約50名）に対して職員1名、及び団体引率者2名以上の体制で行います。団体引率者には見回りや安全確保のアドバイスを行っていただきます。

6 当日の活動の流れ（晴れの場合）

- (1) 体験開始30分前に団体代表者は職員と打合せを行い、実施の最終判断をします。
- (2) 参加者は各自準備物を持ち、講話実施の場所へ集合します。
- (3) 職員より里山保全についての講話をします。
- (4) 長そで・長ズボンを着用し集合していただき、ヘルメット・のこぎりを配布いたします。
- (5) ふれあいの森へ木の伐採へ行きます。
- (6) 木を広場へ運び出します。
- (7) 木と葉っぱに分け、木は30cm程度に切りそろえます。
- (8) 切り終わったものを薪小屋へ運びます。
- (9) 道具を清掃していただいたのち回収いたします。
- (10) 振り返りを行います。

※雨の場合(3)、(6)のみです。

7 注意事項

- (1) カヤック体験と併用して活動することはできません。
- (2) 講話、雨プログラム単体での活動は行っておりません。
- (3) けがの手当て、応急処置は団体引率者で対応してください。
※必ず1グループにつき1名以上救急セットを携帯してください。
- (4) 体験中は、急な体調変化や持病の再発等がおこることもあります。
参加者の健康状態を把握していただくようご協力願います。
- (5) 引率者の方は安全に活動できるよう十分な配慮、見回りをお願いします。
- (6) 急な雷雨等により体験を中止することがあります。
- (7) 森の中は電波が届きにくいいため携帯電話が使用できない可能性がございます。

8 中止・短縮の基準

- (1) 警報発令時は、活動を中止します。
- (2) 注意報発令時は、下記の実施判断基準をもとに、活動の変更・短縮・中止を協議し決定します。

① 気象条件

警報・注意報発令時による活動中止は、午前午後ともに開始30分前に決定する。気象条件が活動に支障をきたすと考えられる場合、職員は、団体代表者に対し、協議（勧告）を行います。自然の家が実施可と判断したのちに実施いたします。なお、気象情報は以下のWEBサイトより情報収集を行います。（津気象台やウェザーニュース等）

② その他の状況による活動中止判断基準

- (1) 局所的に短時間で気象が悪化すると予想される時
- (2) 台風の接近、または通過後の気象条件が不良の時
- (3) 竜巻に関する情報が発令されている時
- (4) 記録的短時間大雨情報が発表された時
- (5) 東海地震、南海トラフ地震に関する情報が発表されている、または発生が予想される時
- (6) 団体より中止の申し入れがあった時
- (7) その他、活動に不適切または不可能とプログラム責任者が判断した時